

1 開催概要

日 時：令和3年6月8日（火）13:00～15:10

場 所：オンライン開催

参加者：廣井座長、漆畑委員、石川（永）委員、石川（篤）委員、
大佛委員、清水委員、富川委員、原委員

2 議題

帰宅困難者対策に関する検討の方針について

東京都の徒歩帰宅シミュレーションについて

3 議事要旨

事務局から議題について説明した上で、各委員より下記の通り意見が出された。

<徒歩帰宅シミュレーションについて>

- シミュレーションのシナリオの妥当性と政策的な取組の方向性を整理すべき。何が問題になり、どういう被害が発生するのか、方向性を議論した上でシナリオを決める必要がある。
- 滞留者をコントロールできない場合等、過酷な状況を再現するなどして最悪を想定し、芽をつぶすことが重要。シミュレーションが再現していない部分やシミュレーションの限界を共有することも必要である。
- 都心直下で地震が発生した場合は、郊外部の公共交通は動いている可能性があるが、渋滞や混雑で機能しないことも想定される。群衆事故の発生の場所があぶりだせたらよいが、今回のような広域のシミュレーションで特定するのは困難と思われる。

<シミュレーションを受けた対策のあり方について>

- 不安心理で動く人は、自分以外の大事な人がいる場合など実動と心理が伴わない場合がある。また、10年前と異なるのはTwitterやLINEの普及。都民にどのようなメッセージを出せるか、わかりやすい言葉で明確にできるとよい。
- 少しだけ休みたい方の対応等についても検討が必要。地域に混乱が生じないようにしないといけない。一時滞在施設の情報発信も重要である。
- 協力する企業側のハードルが高いことも想定して対策を考えた方がよいのではないか。